

登美ヶ丘  
**図書館報**  
第31号  
奈良県立  
登美ヶ丘高等学校  
文化図書部

# どこでもドア

校長 新田泰三

皆さんは一年間に何冊ぐらの書籍が出版されているか知っていますか。

なんと、約七万冊が世に出ているのです。その中には、本当にいろいろなジャンルがあり、文学作品と呼ばれるものから、いろいろなマニュアル

本、趣味の本、資格を目指す人向けの本等々。誰かのニーズに必ず答えてくれるラインアップです。現代は疑問に思ったことは、ネットで瞬間的に調べることができる、便利な世の中になりました。

それでもベストセラーと呼ばれる書籍が今でも必ず存在します。あなたが本の存在も捨てたものではありません。

また、今気になってるのは、平成を振り返ってくれるような内容の本。必ず狙われるテーママでしょう。教員生活の大部分を過ごした平成の時代。どの様に回顧されるのでしょうか。興味津々です。

図書館にある、あるいは書店の店頭で平積みされている、気になる本に手を伸ばし、少し立ち読みをしてみる。そんな瞬間こそ、まさに読書への入り口です。そこには、誰にも邪魔されない自分の時間が広がっています。

しかし、かく言う私も、決して読書家と呼ばれるカテゴリーには属しません。ジャンルにかかわらず、気になる本に手を伸ばす、節操のない乱読家。一番最近に読んだ本は、矢部太郎氏の「大家さんと僕」

あつ、これは四コマ漫画でした。読書というには邪道な気がしますね。でもほのぼのとしたよい作品でした。

ところで、本の持つ一番の奇跡は何だと思えますか。それは、本の表紙

がいわばドラえもん「どこでもドア」であること。開いたとたん、そこにはいきいたい世界、時代が広がっている。そして、その中では、まるで、四次元ポケットのアイテムを使ったように、誰でもが主人公になれる。夢が叶う。そうした無限の可能性を体現させてくれる。あなたも気になる「どこでもドア」を開けて、そこに待っている時間旅行を大いに楽しみませんか。

# 未来

教頭 渡部憲一

東ロボくん、Society's of シンギュラリティと2045年。これら全てのAI(人工知能)に関わる言葉と出会わない日がないくらい、私たちの身近なものにAIはなり、テレビや新聞などで連日報じられています。国内約7割の大学へ合格する可能性が8割を超えている東ロボくんや、労働人口減少に伴い、製造業や介護の仕事等の代替や補助役にAIがなるうとしていること。また、2045年には、人間の知能を超える転換点を迎えるだろうと言われて

いることや、碁や将棋で一流のプロを打ち負かして注目されていること。このような報道からも、AIが私たちの生活の中に浸透してきていることは明らかです。

さて、このようにAIと私たち人間との共存が近付いている中、私たちはAIのことを正しく理解している、あるいは理解しようとしているのでしょうか。と、問いかけているのが「AI vs 教科書が読めない子どもたち(新井紀子著)」です。「教科書ぐらいは読めるわ」と思っている君、質問です。「日本の子どもは、どれくらいの比率で子どもが教科書を読めていない?」「教科書が読めないこととAIとはどのように関係する?」「その結果、これからの未来はどうなる?」

この本では、調査や統計を用いて、これからの私たちに求められる資質や能力について述べられているとともに、私たち人間の未来についても結びの言葉で触れられています。「私たちが、人間にしか出来ないことを考え、実行に移していくことが、私たちが生き延びる唯一の道なのです。」と。

素敵な本との出会いが一冊でも多く生まれますように、あなたの側の本に手を伸ばしてみてください。ちなみにこの本は図書室にもあります。お試しあれ。

読書エッセイ

本から人へ

保健体育科 大森雄一朗

小さい頃に、母親によく図書館に連れて行ってもらったおかげで、本を読むのが好きな子供だった。中学ではサッカーに熱中したあまり、本に触れる時間が減ってしまっただが、大学でまたゆっくりと本に向き合いながら日々を過ごした。

小学校では小説や伝記物が好きだった。サッカーを始めてからは、ペースが落ちたものの、サッカーのことを書いた本を多く読んだ。大学は、スポーツコーチングが専門で、それに関する本を読むことが増えた。

つらつらと、本に関する自分の履歴を書いてみると、その時々における本の影響がよく分かる。小さい頃は、偉人の語りに背中を押してもらった。中・高時代サッカーを始めたのが遅く、自信が持

てなかった自分に、本から得た知識、戦略が勇気を与えてくれた。大学では、本を読みながら自分に問いかけることが増え、より深く物事を考えるようになった。

今、君達はどうな本を読んでいるのだろうか？どんな本に興味があつて、読みたいと思っているのだろうか？日々の忙しさに追われてしまい、本について語ることはなかなかできていないが、一度君達とゆっくり話してみたい。

本との出会い

国語科 関尾規子

読書が大好きで、いつも何か面白い本はないか、次は何を読もうかと考えています。心惹かれるのは新しい本・話題の本です。

新聞の書評や広告も参考になります。なんと行っても学校図書室の新刊書・話題書案内のコーナーが力強い味方です。魅力的な本を紹介してくれると同時に、その本を提供してくれるのですか

ら。

登美ヶ丘高校に着任して以来、多くの本との出会いがありました。最近では映画化された本のコーナーから「スマホを落とすだけなのに」「人魚の眠る家」「旅猫リポート」。「コーヒーが冷めないうちに」は予約して借りました。

柚月裕子「盤上の向日葵」、直木賞受賞の「ファーストラブ」、湊かなえ「未来」など、新刊コーナーに置かれている本を次々手にとり、楽しい時間を過ごすことができました。

冬休みに持ち帰ったのは、伊坂幸太郎「フーガはユーガ」、米澤穂信「本と鍵の季節」。両作家とも以前から知っていて、新作に心躍らせながらページをめくり始めましたが、いい意味で予想を裏切られる読み応えのある内容でした。

今年も新たな本と出会うために図書室に通います。どこでも手に入る本でも

私の読書

英語科 前田加奈子

中学生・高校生の頃は、「本を読んでる自分」に酔いながら、本を読んでいたような気がします。太宰治を読む私、仏文学の大作「モンテ・クリスト伯」を読む私…：ナルシズムです。

大学生・大学院生時代の読書の中心は、自分の研究のための読書でした。目の前が晴れ渡り、すぐにでも論文を書きたくなるような本に出会うこともあれば、途方に暮れて、何も書けなくなるような気持ちになつてしまう本もありました。

その後、育児が始まると本を手にする間もない時期が続きました。今、四十代半ばそろそろ純粋に楽しむ読書がしたいと思っています。

ルーツを探る

国語科 田中晋作

高校生の頃、太宰治を読みあさった。きっかけは「好きな作家は？」と聞かれたときに、「太宰治」と答えたから格好良いのではと思っただけだ。

そのうち、太宰治が憧れた作家は芥川龍之介であるということがわかった。自然と芥川龍之介の本を手にしていった。ある日、一つの短編に心をうたれた。「戯作三昧」という話だ。滝沢馬琴の苦悩、憤り、そして芸術の境地を描いた作品である。この作品を読み終わった後、なぜだかはわからないが、涙が出てきた。本を読んで泣いた事は、過去にドラえもんが未来へ帰って行く話を読んだときだけである。とにかく、そのときの衝撃は、今でも私の中に残っている。

きっかけは何でもいいのではない。好きな本や作家、また、音楽やファッション。好きなものが何に影響を受けたのかを探ってみると、もし



五月十一日の放課後、図書室で登美高初のビブリオバトルを開催しました。

チャンプ本は、三年五組の宮本一秀さんの『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』になりました。

テーマは、新入生におすすめの本で、一年生は先輩たち

### ビブリオバトル



かしたら、衝撃的な事がわかるかもしれない。

その衝撃に出会う第一歩として、図書室に足を運んでみるのは如何であろうか。

## 平成三十年度 登美高図書館の活動報告

の本への熱い思いを聞き、  
「どの本も面白そうだな  
だ。」「読みたい本が見つ  
った。」「聞いたことのある  
本やない本まで、いろんな  
本の内容が知れてよかった。」  
など。好評でした。

### 文化講座

「Staying abroad ~ Adjusting to different cultures」

七月二十日の放課後、第二情報室でA.L.T.のクリストファー・ヒル先生による文化講座に四十二名の生徒が参加しました。

プリント画像、パズルなども使った分かりやすく楽しい、あつという間の一時間二十分でした。

海外への関心を深め、意欲を高める良い時間を過ごしました。



### 登美高文化祭

「スカベンジャー・ハント(宝探し)」

文化祭の一日目、図書委員企画『スカベンジャー・ハント』を図書室で開催しました。

一時間のみのイベントにも関わらず、六十八名が参加してくれました。

初めての試みでしたが、大盛況に終わりました。これを引きかぎに図書室を身近に感じ来てくれる生徒が増えました。



### 第十二回古本交換市

十一月五日から六日まで、読書週間中に、読書への関心を盛り上げるとともに読書の輪を広げる目的で、古本交換市が開催されました。

限られた日程にも関わらず、多くの生徒たちの参加があり、読書への関心の高さを再確認できた二日間でした。



### 朝の読書

一年生、二年生を対象にチャレンジタイム中「朝の読書」をしました。

六月と十一月の年二回ですが、朝の読書後も学級文庫の続きが読みたいなど。本を借りに来てくれました。

### 図書委員長のメッセージ

二年三組 松井紀子

本屋へ行く。小説なんて読まない私は、すぐさまお目当てのマンガコーナーへ。ずっと欲しかったマンガの最新刊を手に取り、レジへ向かう。早く読みたい、このために来たんだから。早く家に帰ろうと本屋を後にしようとしたその時、ある一冊の小説が目にとまった。すごく、きれいな表紙。何のお話なんだろう。それくらい興味だった。これが、私と小説との出会い。世界が変わった日。

「小説を読む」と聞くと、なんだか固苦しいと感じる人は多いかも知れない。マンガで良いじゃんって。

でも、私は小説を読んでほしいと思う。きっかけは表紙でいい。合わなければ、最後まで読まなくたってかまわない。小説を手にとって、目を通して、綴られていく物語に触れてほしい。きっと、何かが変わるから。



# 平成30年10月19日(金)文化鑑賞会 ダイアン吉日「英語落語」 中国民族芸術団「中国雑技」



三年一組 大西潤也

今回の文化鑑賞会では、テーマを古典芸能とし、英語落語と中国雑技の鑑賞をしました。どちらも、めったに見られないのもだったので生徒も心待ちにしていました。

実際に鑑賞した生徒に感想を聞いてみると、思っていたよりもずっと良かったという声が多く見られました。試験などで疲弊し摩耗していた生徒の心も文化的に満たされた、心地の良いひと時だったのではないかと思います。

二年六組 永見有津紀

今回、英語落語を聞かせてもらって、聞く前は例え英語のお話が面白くても英語が苦手な自分には、どうせ聞きとれないと思っていたら、英語の前は普通に日本語だったし、落語中も日本人とイギリス人の会話だったり、簡単な分かりやすい英語が落語に使われてい

たので、内容の理解もできず、とても楽しく笑いながら聞くことが出来て、いつの間にか時間が過ぎてしまいました。

二年六組 伊藤壮汰

中国民族芸術団の方々による「中国雑技」の中で、「皿回し」「獅子舞」などの技を見ても、絶え間ない努力の末に成り立った洗練された技であることが伝わってきました。

中国の伝統芸能の一端を見せていただき、良い体験をさせていただきました。昔から受け継がれてきたものには、すばらしいものが多いと思うので、是非、今後も伝えていっていただきたいです。



## 平成三十年度 新春カルタ大会

図書委員

一年六組 高井彩月

一月二十三日に一年生最後の行事、カルタ大会が行われました。始終笑顔が絶えず、みんな楽しんで札を取ることができました。

予選では、全力で取り組んでいて、練習よりも迫力がありました。特に「ちはやぶる」の札の取り合いは場の雰囲気が一変して、とても盛り上がっていました。本選は一月二十五日に放課後に作法室で行われました。予選とは違い、札を取る速さはとても速く、緊張感のある試合でした。札を並べている時から札を覚えていて、上の句が読まれるとすぐ取っていました。

結果は、クラス優勝が二組、二位が四組、三位が六組で、個人優勝は二組の上田美結さんでした。

初めての人もそうでない人も、昔から伝えられて

いる百人一首に触れて、古典文化の魅力やカルタの楽しさに気付くことができ、思い出に残るカルタ大会になりました。

優勝者

一年二組 上田美結

私は四歳か五歳の頃に祖母に薦められて百人一首を習い始めました。今も百人一首をやっています。学校でのカルタ大会は普段やっている形式とは異なりました。取りだつたので少し大変でした。

入学してから初めての国語の授業の時から一首目から順番に学習していく時に改めて和歌にどんな想いが込められて、どんな意味を持っているのかを学べて良かったです。これからも今まで学んだことを意識しながら百人一首を続けていこうと思います。



今回のカルタ大会は、とても楽しかったです。選手生命も守られたので良かったです。次は公式戦を試してみたいです。